

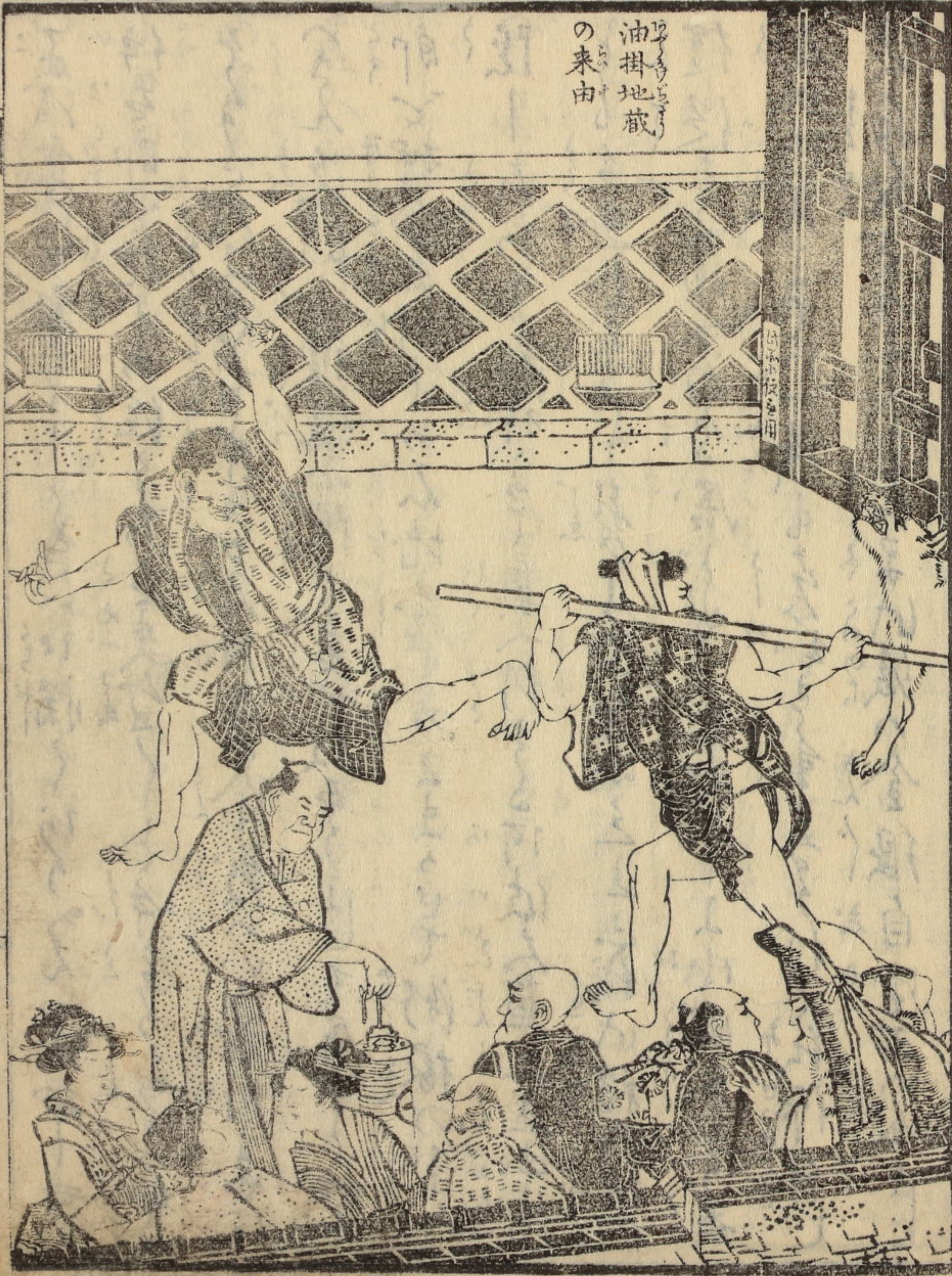




く我方針録一いさか不便中人同く縁に  
とわげ流沈しく後入針小見へるが漸よ公と沈せり  
てさきから紙納んと抱上んとさる小女力小中く地も  
離さざればいさか不便と結く見えば我子小はあそ  
びの石地着とるよ小小いは先油とそぎうけ小  
ぞりりる夕霧ハ仁氏して扱ひ日以遠じなり地着  
るの刺生よそ我子身代りと成流いしう勿祈るも  
家前ハ公の内ふて地着と恨と糸ら事の思  
一やゆるさせ給へと礼扱一さるふそ我子の何國へ  
逝くとわたりと見え廻其叔母扱坊の家小隠てり

と縁の下より這出たれば二度驚りの思一き者ども  
何とてそまといいまめげけ地着とい身沈よ  
とそる娘一く尋まの侍を即も不審晴も夕の乃  
大さか男婦と遊教一坊と奪い交へくアそ来り  
が片の間小から繩のぞけけれはそ川と縁の下這入  
一がゆへるくら森ぬゆ小縁の下で森入一小叔母扱  
の泣きよ目が笑いと雪度毎よ地着るれ刺生はる  
とさるよても老母ハ三上山よ教され一と扱もく  
かやまのふ遊一時も家も志るぬ盲人の身の上と悟  
アし時の悲一さつらさ身切中うと思いに泣やひ

油掛地蔵  
の来由



子成奪ひぬき了りしときハ口惜くわりのんいとおしやと  
 伴を即と抱しぬ後らちを交なくと叫ぶる影よ警  
 そろそろ又悪者どもが足付る今夜ハ同よやハ  
 へん先ハ小袖櫃小隠て着せぬ中うはして居やと伴を  
 郎と押入蓋引しぬ地蔵と力よまうせて御塚の下へ  
 隠しぬらぬ并よて奥ハひるる阿波大曲之上山諸  
 とも立出むそく教よていふ之上に我ハ程乃揚代  
 僮僕もる少ぬ寄居ども一云付しよ水國元より着  
 殿の出用よてハ一錢も取ぬ事やれと紅作付し  
 少ぬ孤らうし一銀子ハ後ハ金銀自はよハ孤はじ

先年盗せぬき一公任の之紙我氣をハ剛牙を離れ持  
 うけり室ハ身ノさし合し中らん氣城出入の町人横登久  
 兵衛方ハ質物入金子又百友借交来るべし我家代々  
 の室室るがら急よ金子入用此を批質物入るといふ  
 へしぬらざとく懐らさると叫て之紙を後せぬ妻細吞  
 して出給る船くわりて金子又百友と質物ハ紙持来り  
 荒又郎と叫出し金質札と後ハ横登方より金子取切  
 の室室くハ紙の中まじりし急用といふ金子先  
 上ハ見る見く急よ金子取切ハ紙持来りしと異ぐり付し  
 いよよまハ心得るハ質札我子よわりてハ後我の子熱

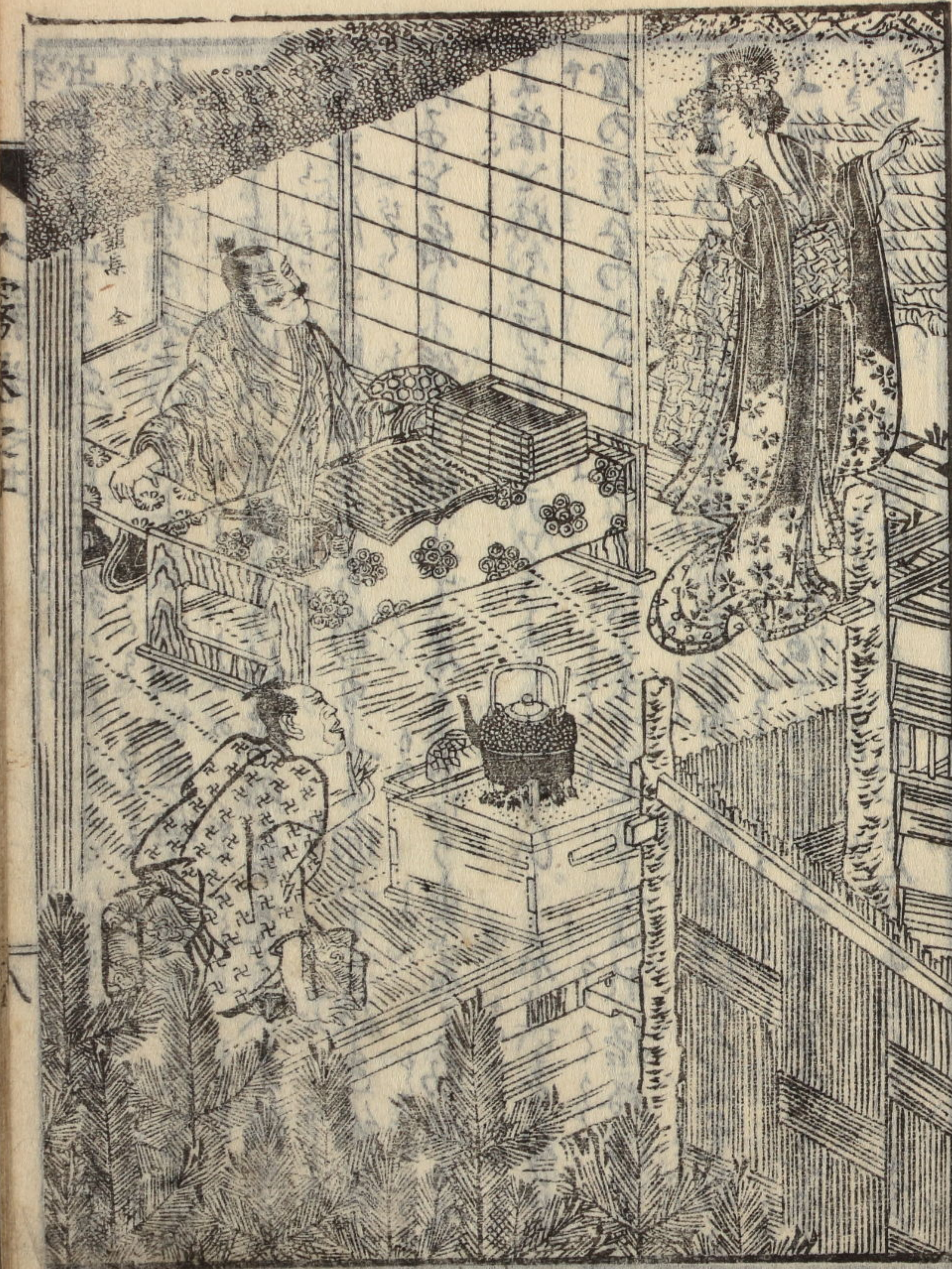


阿波持と申すも乞ふ業り予の偽拍とそらやふ念  
 う阿波阿波合ふ法を弥々宝にお違ふらば阿波  
 子も偽拍と申すも乞ふ業り予の偽拍とそらやふ念  
 てつよふ久き傷もむし思ひ阿波阿波とてきし阿家乃  
 至宝公何々の命仙と義殿様意し金子出入用連金  
 子又百両見よ太の宝取形り中何年予よく阿家  
 居し私下ゆ換ふと中きしこれに家老用人肩を引そ  
 先其奇仙の色紙と申す天下に只一物うそ代り  
 横井中納言云度形り有りしが先年紛失して中納言  
 殿其罪よよりて伴豆圃(遠流)りしと傳へたり

義殿いづして申すよりや甚不審と大敵大略  
 殿よかくと告ぐれば大上勢其奇仙け方よ有と  
 禁庭(安)る一大事なり荒み所いふして手よ心  
 うい志し秘どもを年分持放逐するり將軍も  
 此目小づりり阿國と伴付らきしよ又く浪花にて  
 おびししく金銀ときい果しくるより安住居大  
 より交り申す来りふと横屋より奇仙の事や未  
 るる一大事なり一日もよく勘當し將軍家納  
 言に後日の難をいかるまどと家老毎山源流流  
 と浪花へをきし荒み郎と勘當し申す將軍家へ







出る事止るふいづも面影の昔一も似を浅間一き兵  
 形しよりみふぞいさ一き西國と巡廻一終りくは東國  
 とんざ一欠濃の岩汲より信濃の吾光と一糸指せん  
 笠打傾主膳満も昔約ゆふよ向ふより破色編笠よ  
 紙子と看一信と視よて来る者けり壺宿も物敷も者  
 一信と好し侍なるシテワキよて視多し一其喜替者  
 厨の侍なるよきも似くは行て足多ふ一形捨好侍なる  
 一遠いなるれは主膳も不審し夜登侍なるよき程と  
 一似るものよきとれど大坂一二と年一豪家のいそぐ  
 食よるべきと目と定りく是とんかよ侍なるよきい

る多れは且勢いふ者登侍なるよりらむや一主膳勢  
 くまへ大小作天してこの主膳殿よておはむや蒸殿  
 一てま一まとうの安祈の祈悲悦玉極志や一我光の  
 色の果と山後下るれし一先ぐ泣きれば壺宿も物敷  
 一も表紙信一信小派よくまのい一か去よても汝い  
 事一そのくハ藤ふれ一ぞ不審一と見ぬふよ侍なる  
 派と押一花の井よれんぐりき一より似せ父の志を踏よ  
 一て或万両余りの金紙きい捨一始末落もるく借り君  
 一長く西國巡礼より四國と巡り今又何國一初め  
 一も壺宿も物敷されは是より信濃の吾光と一消んと思ふ

る里今一度元の壺宿に助するなり外より外より入る  
 明善佛神と祈ると空に佇たふ沈吟して何れも其  
 事も花の井が父伴豆の園よて只今の中納を殿備も  
 中やうよ著しは趣と兼り一先是へ約て勘高の能を  
 待べしと立ち先はゆ人乞へ下らんとなぐ乞食して其  
 るよ晝ぬ縁とて因又かゝるは事の嬉しき熱法  
 への不思議の温泉有りて備病平愈するとの事なき  
 ば乞ふより亦よ熱海に越遊ばれ温泉は活しぬいふべ  
 病平愈愈疑い何るべしと助先もあつたれば壺宿  
 と助殿取とつりぬい候令に病平愈する温泉ありと

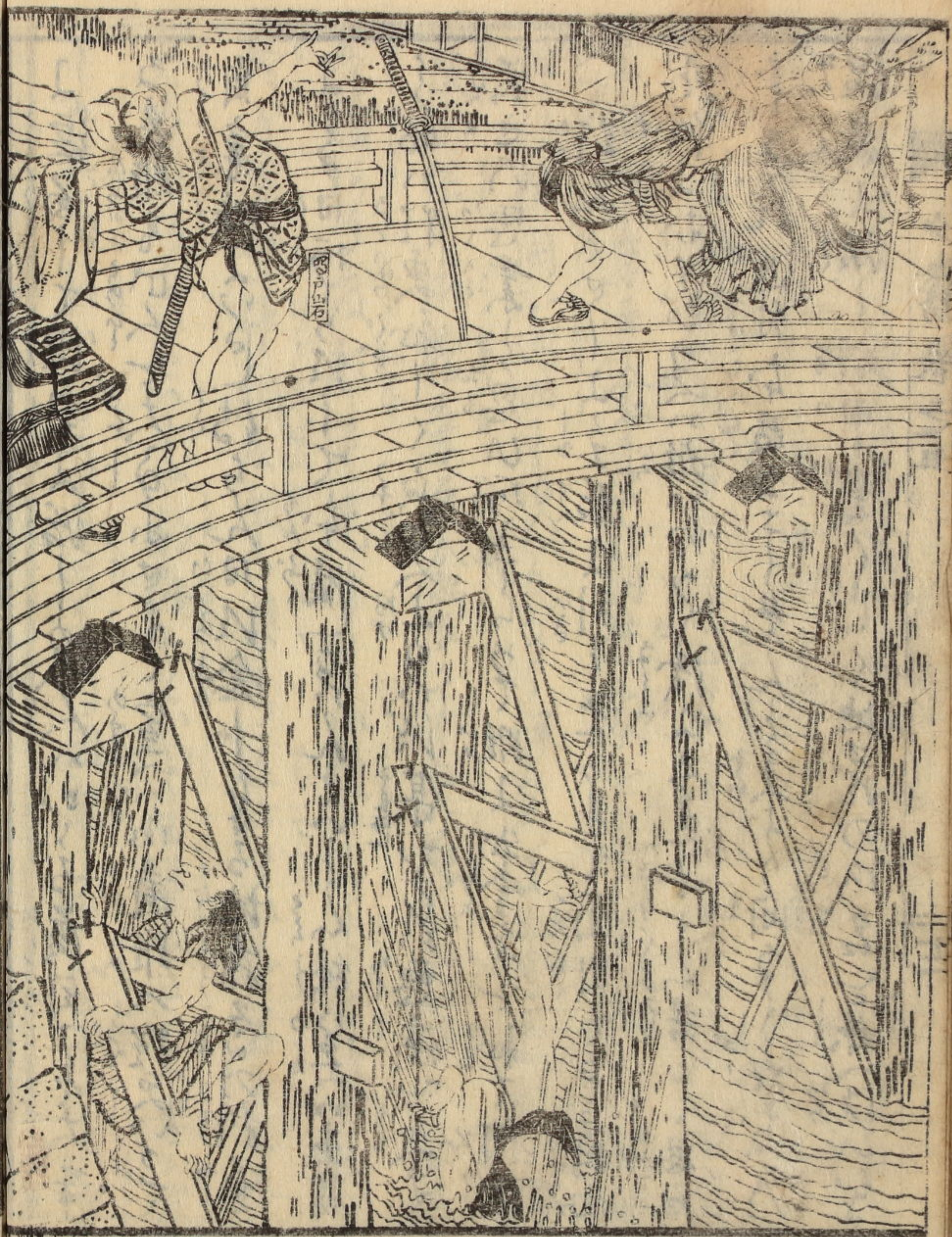
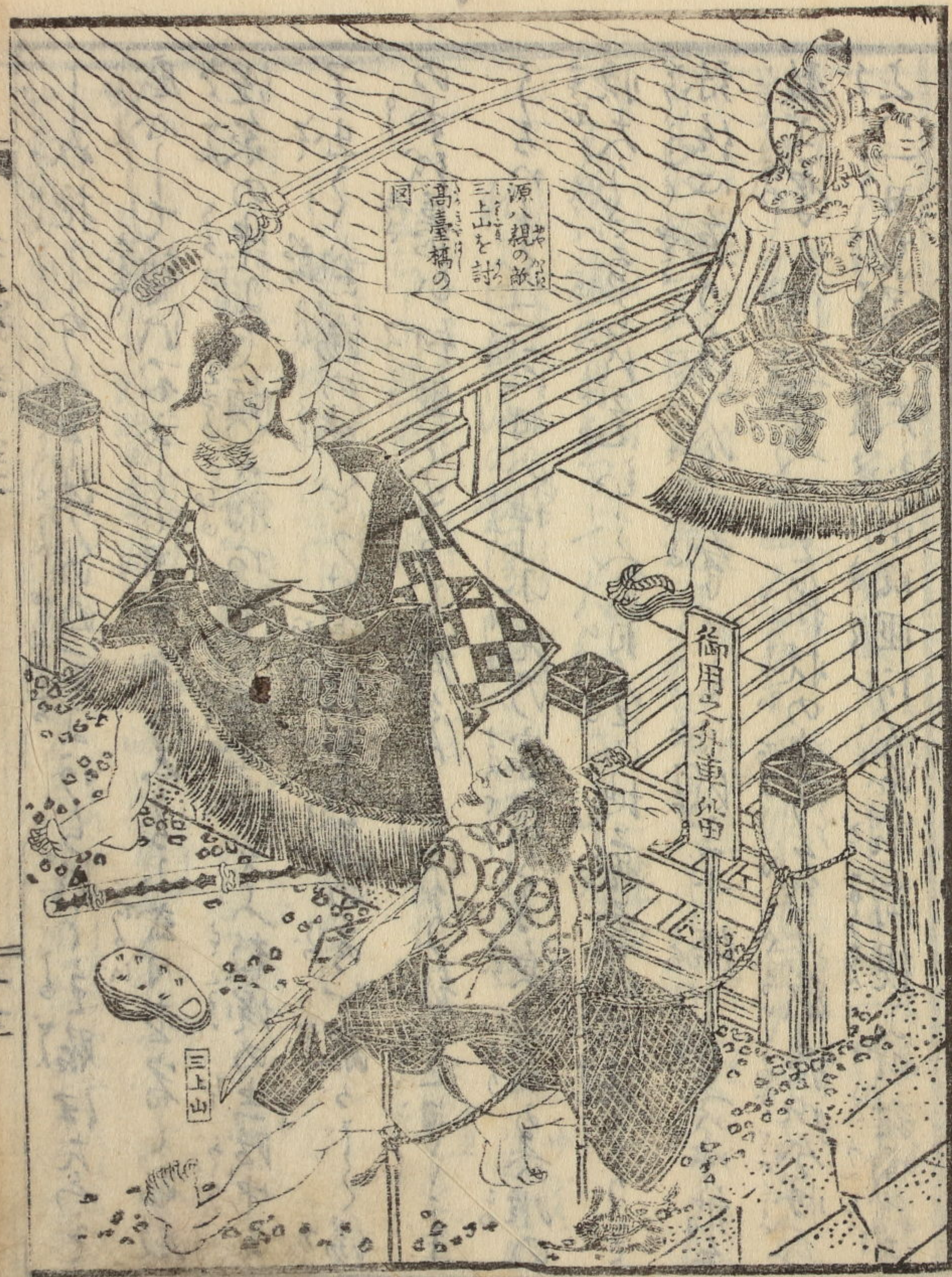
もい息取れそいで此菌類はまゝへんと更引ぬるに  
 とく結納しそきへされども一旦此縁を絶きし娘  
 君るれば此婆の誓りじとていささかまどりまは  
 嫌いの入ぬんさらば窓籠る此婆よりもぬい鄙俗  
 ねしれりぬんをさし一かぬい娘の操何いぬと佇た  
 備も助むは此宿に助殿も其温泉よて元の姿よ  
 るるならぬ船びきよも何らばと御得をいぬいまより三人  
 打連熱海へしそい起るる

此菌類の操壺宿に助殿疾平愈の候  
 橋井中納を殿に右系し進が忠節こそ多の金銭持来



此後してすくつるゝと定宿の物給和ふくく遊むんじ  
ゆふれを招引く先を理の内へ使ひ奉らせ某の先年  
伊太が結納を持来せし正木主格よての主人定宿  
と賜病平念まで筒井家と遊らまはしり諸國  
神社佛圖と巡回しゆぐりゆく伊太の正木主殿と温  
泉と信しぬ病平念をさく先再び筒井の家名  
お續けり度致しそそ気まじく此後中せしと決たらし  
けりこれに伴納を殿も興より立出のい定宿と賜を  
見らむいりまじくハヤ敬座といやも並るき大男と  
し其面致いさるるるる去の因果名を並るくいさ

よ還りて温泉と浴しの人ハゆる落目し大奉  
るは娘もい人と大ゆふせよと室ハの園娘ハ控えいつて  
自麻略よじ付らん日以念トなる地産の利益  
よき日何らけして本懐も人といふ人結室ハの定宿  
と物ハ程更和しく貞人止むら某の悪疾と交るも  
若せの思業と思ひ何きらうて娘と出合年と和て何困  
へも好んとせしよ主殿と引く先らきて面目も三對面  
と浴しむせいの之ハ娘いさく浴よとせふく人若しく思  
事るれ遊付本殿をさく先人とまより同うたれぬ入  
温泉と浴し娘甲斐くしく地産の山名と称し洗い



一抱一々事他人の収和よりらばと主膳はたふと  
 感心して暫け不よしとまりとるふ或日屯宿し助殿  
 温泉の中よて頻し胸のく嘔吐しつゝ入敷塚の虫腹中よ  
 り出く熱湯の中よりけ歩行事魚の身と遊ぐは湯  
 のわだ慕い何國ともうく失くりて氣より熱を日く  
 くるはく二三日の中小元乃宗宛たる魚子成なる六堆の  
 悦大いさるらばを和し日金の地蔵その思詰るなりと  
 弥信心急りさく今い事方も月以十倍しつゝ中絶を  
 敷し厚くはく之のるを揺挽の余り氣子麻痺山合将の  
 二一日も子く大和へ山崎園りりて山両親し山對面行る

一と助るよ屯宿し助殿も汝が中てく一日もあく山  
 對款ゆな思へども四入年も漂泊して國の換ふこと  
 りの汝一人國へゆり途の者とをきとて山腰のつるれ  
 ば主撫後の用意して大和とて登り多々  
 私よ曰熱海の熱湯の中よりやき出りて湯中の  
 多し一其中とあふ事今も變らてけりを屯宿  
 し助懐中より出く出くは免建はし  
 雷電源八多家格よて母の仇と濃を話  
 かくともあらば雷電源八長崎の角力よて多々の金銀  
 と英ひ勇と進んで浪花へゆり先八十橋吉平の方集へ

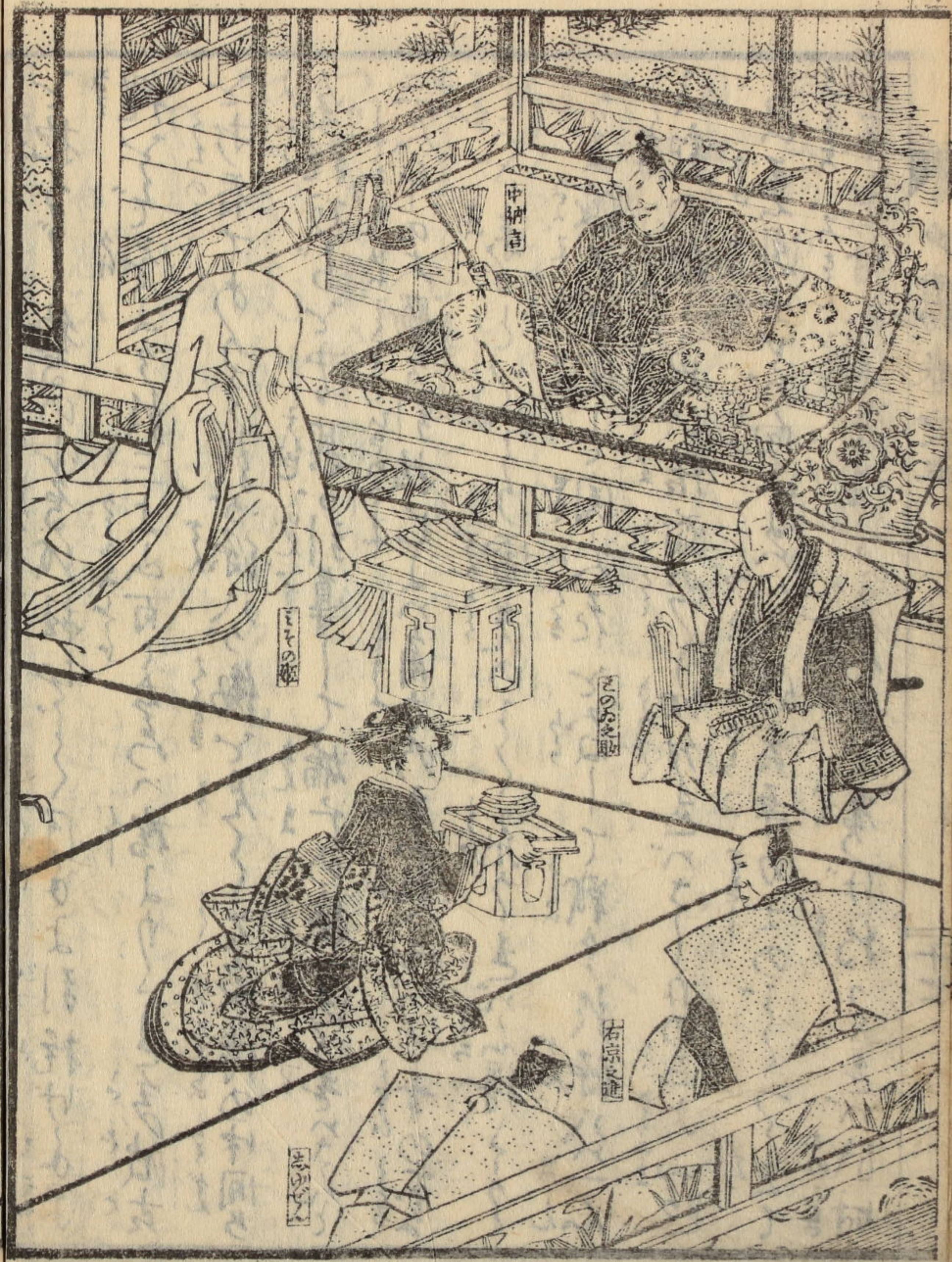




止一人への心の静さ色は仕換むる事何れの  
 うりそなふ汝が顔色をのぬりよぬれば事なきは急  
 くと退きくらの流石名小の園あるりくろまより源八  
 文章天まよりよる家格よ来り候子と何よりそなふ用事  
 も果てまよとて河級ふり疾も更へればいさぬらんを  
 三上ふつあひして弟子鏡山湖精和川系は何をも  
 の養ひて力まよる恩僕ももるり當りて荒れ先  
 急どやくと橋来りかみと源八橋のま中よりりて  
 いふよ三上ふ先日合邦が辻よも我母と教へる事先  
 いらん雷電源八よりよりなよ結をより昆布み勝負

せよと叫べれば三上ふの志ろりともん中り雷電ハ長流  
 よりりのゆり我生を射て小年者よて人を殺生  
 るがごとく事生流是より人遠るるべしと空うを吹  
 ておひよるらひ比真より小児と奪ひぬらんぬ先  
 邪テよ成母と教へる事お表はし立よつと勝負  
 くくと借事おもぬいぬらよのよもあぬ事あたら  
 ぬらり沈ぬらるべ出まを長其ときハ男より勝負して  
 たらせんとまふまふら何らざらハ源八も能ぬら  
 可いうせんとなめらるる不其能ぬらよ何り何れ  
 即と抱き八十為吉平格借よ仁玉のくくつまより





百くまの法札を大庭武を不更くもろく不承事うけ  
 一いつふ切付るどろくれば發動は兩町より様子  
 持て住持をいふに源八と生捕人とをいふと八十橋  
 うけをいふ親の款打るるそ楚忽のふまといふ  
 不の縣令絶ふ救多石連石捕は向ハ源八十橋河紙採  
 一をいふ親の款打よいとをいふと名系ハ縣令河紙改め  
 親の款打よもせよ汝等ハ町人ならむや吟味海までハ  
 繩とてをいふと何ら源八利は伏し居るよ腕と廻せハ  
 絶子もよ小よいまい先多れ縣令死骸とていふ  
 まるよ三上山が懐中より入百太の質れよ云はむ事の事

仙のま紙とらり源八はるり人よ其ま紙と人  
 の遠流るり叔と杜地と見せり何とぞ山にせとこれ  
 と批施の明りよ得と見ては質れよ懐久の二字と  
 といふ判判らるへ正しく懐屋久を清方よま紙ハ  
 んぞ懐三上山よる紙さ詮義の種と失くると大  
 二款ハ八十橋声りけ源八款く事さこれハ事  
 むんうと三上山が子鳴戸定紙は捕さくると懐  
 の茶よ引けり何れ者と拷問甚されハ要細お  
 りる事といふ縣令ハ八十橋紙採は汝が働ハ天晴  
 源八事ハんよをり事さく何れよ源八懐ハ事



事幼少の子の母よ不よりらるる母は又後日原時も母の  
傍と難きば存ならぬ母よ金子二百両ありて櫛久の  
と後一と任のき紙と名色一申納を敵の肉治と利  
く一といふも母も夕雲勝が貞節存たるも存るは  
世治よりしるすと思ひ金子二百両後其由は櫛久の方  
之紙の始末と修り金子等より久き湯を紙名ひ  
其盗物も志らば阿波大名家のき室より一と家と  
思ひ質より多しる金子よハ方ハと金子紙もなると  
紙と名色一と存たるは將軍家へ之紙と持込櫛  
保兼右郎が次郎一戻り一と則兼右郎ハ縣令不より捕

是を其より一物と名色一ハ將軍家より下知五て兼右郎  
源八と石連乗あるづ一と子連は味を兼右郎と修  
と持込あるよ一と山よと名色一と盗ませ由宿る助  
兼右郎之敵病と名色一と事と夕雲勝とよハ入んと  
之よ山よと名色一と源八が母紙も教させ一は白紙と及け  
是ハ源八ハ親の教付よお違る多れば子連を教免あり  
兼右郎事ハを衆逃ぐる志どる首とぞ付せぐる將  
軍家より禁座へ之紙と名色一と名色一と櫛井申納を  
治と名色一と名色一と帝威感りて申納を敵に連治  
保作付これハ再び花咲まよお公地一と熱海より帰

洛一は正室と船敷といふは胎子産大和(三波病丸)  
平念のより仁妻入るふ中(三波)の大病(三波)より  
後と云ふは誠(三波)目代(三波)警(三波)氏(三波)列(三波)して目代(三波)國(三波)入(三波)り  
親子(三波)の對面(三波)り(三波)し(三波)も(三波)伊(三波)左(三波)衛(三波)門(三波)子(三波)也(三波)大(三波)和(三波)一(三波)妻(三波)り(三波)正(三波)室(三波)  
物敷の瘵疾(三波)へ(三波)令(三波)養(三波)ふ(三波)郎(三波)が(三波)毒(三波)業(三波)と(三波)以(三波)て(三波)計(三波)い(三波)し(三波)る(三波)白(三波)  
物(三波)の(三波)類(三波)中(三波)より(三波)仁(三波)妻(三波)大(三波)一(三波)警(三波)氏(三波)を(三波)將(三波)軍(三波)家(三波)正(三波)室(三波)  
了(三波)船(三波)敷(三波)平(三波)念(三波)の(三波)旨(三波)中(三波)より(三波)仁(三波)妻(三波)大(三波)一(三波)警(三波)氏(三波)を(三波)對(三波)面(三波)に(三波)  
の(三波)仁(三波)妻(三波)大(三波)一(三波)警(三波)氏(三波)を(三波)六(三波)年(三波)諸(三波)國(三波)修(三波)り(三波)の(三波)事(三波)と(三波)も(三波)云(三波)ふ(三波)  
ま(三波)い(三波)水(三波)蘭(三波)姫(三波)が(三波)貞(三波)節(三波)と(三波)感(三波)づ(三波)か(三波)ひ(三波)改(三波)て(三波)將(三波)軍(三波)家(三波)の(三波)媒(三波)  
して(三波)孫(三波)井(三波)家(三波)より(三波)大(三波)和(三波)一(三波)將(三波)軍(三波)家(三波)の(三波)歷(三波)と(三波)云(三波)ふ(三波)流(三波)ら(三波)る(三波)婚(三波)

姻(三波)り(三波)る(三波)仁(三波)妻(三波)の(三波)恨(三波)ひ(三波)た(三波)る(三波)ら(三波)ば(三波)仁(三波)妻(三波)代(三波)り(三波)と  
契(三波)り(三波)ぬ(三波)い(三波)る(三波)正(三波)室(三波)と(三波)物(三波)の(三波)右(三波)系(三波)と(三波)進(三波)が(三波)深(三波)切(三波)の(三波)計(三波)い(三波)  
を(三波)婚(三波)し(三波)る(三波)い(三波)る(三波)扇(三波)屋(三波)より(三波)夕(三波)霧(三波)と(三波)交(三波)す(三波)正(三波)室(三波)と(三波)物(三波)  
媒(三波)妯(三波)少(三波)く(三波)再(三波)び(三波)伊(三波)左(三波)衛(三波)門(三波)子(三波)也(三波)婚(三波)する(三波)先(三波)の(三波)母(三波)也(三波)用(三波)也  
夕(三波)霧(三波)が(三波)夕(三波)前(三波)と(三波)以(三波)て(三波)書(三波)替(三波)し(三波)似(三波)交(三波)の(三波)事(三波)と(三波)大(三波)一(三波)恥(三波)く  
賤(三波)ま(三波)い(三波)く(三波)書(三波)し(三波)孫(三波)伊(三波)左(三波)衛(三波)門(三波)子(三波)也(三波)が(三波)發(三波)明(三波)と(三波)恨(三波)む(三波)中(三波)納(三波)を(三波)敷(三波)  
の(三波)廢(三波)宅(三波)へ(三波)向(三波)井(三波)家(三波)發(三波)明(三波)伊(三波)左(三波)衛(三波)門(三波)子(三波)也(三波)より(三波)書(三波)替(三波)し(三波)は(三波)誠(三波)と(三波)云(三波)ふ(三波)  
ま(三波)い(三波)き(三波)書(三波)替(三波)して(三波)美(三波)人(三波)の(三波)位(三波)と(三波)書(三波)し(三波)ぬ(三波)い(三波)る(三波)者(三波)伊(三波)左(三波)衛(三波)門(三波)子(三波)也(三波)  
在(三波)る(三波)家(三波)業(三波)と(三波)嫌(三波)ひ(三波)伊(三波)左(三波)衛(三波)門(三波)子(三波)也(三波)家(三波)督(三波)と(三波)讓(三波)り(三波)夕(三波)霧(三波)諸(三波)  
とも(三波)伊(三波)左(三波)衛(三波)門(三波)子(三波)也(三波)の(三波)國(三波)熱(三波)油(三波)して(三波)申(三波)納(三波)を(三波)敷(三波)の(三波)旧(三波)宅(三波)と(三波)修(三波)理(三波)し(三波)引(三波)移(三波)

温泉と云ふ一生涯困居の著しき終るを因出さるれ  
或曰今熱海と云ふといふる温泉舎のこの温泉は  
後流と云ふ可後考

夕霧書替文章卷之五大尾



著作

遠州

栗杖亭

鬼卯



畫工

尾陽

東南西北

雲



筆耕

浪速

福田

春龍



定昇三浦源助版





